

昭屋重助は家族の慶遊等と聞かして居たの
彼は平然として

「家内は恥しむればおとと思ふ事可成り何事も
心配ありませんと凜然たる決意を弄し」

夕方の間、銀と過つて山に差し掛る約五六十
歳のケラマンの谷父の河上附道で大き々反駁する様に

旋回したと思ふと直ぐ真下に急降下……
繞つてケラマンの谷を降り

「昭屋、うちの據点かやれとるんトやはのほ
」

「さうかもおれもせんは……
方向といふ位置といふ念之隊本部の據点らしい

急いで帰るのは一大事！
急降坂路である。おまけに路はあやほしやがえん

位の小さな奴、荷物は言ひい念之物をとめる。
皆々前進し、例の觀測標定候……意は

善と云ふと、路は急降下である。
……此の……

許りの艦砲の時より居合わせた

兎に角見付けたら仲は「あり」と言つて

偽装して 対応を勅を適切に

日没まで前評だとして頂上の戦車指揮所に

着くと待つるに傳令の真比志原盛

隊長敷 連絡文書は山入端班長殿に渡す

あつたお歸りの渡りかうの配りをするに名護は

大天ですが、今までの差のゆゑに名護は

の状況の心配を感ずる

うん、大天は皆んは死なぬぞ、今日は玉城

の奴が傑作をやつた、と件の一歩を話す

皆空に明朗に既に意気は敵と呑んで

敵上陸第一

敵、南に簡單に拾ひ上げて見ると

0105 敵歩二天 名護島に海岸に上陸

0110 敵歩三北 戦車名護島に進入

1010 敵歩一 戦車名護島に進入

名護一 仲危攻 偵察

名護一 呉我

主力、為獲、集結
一方は、敵約、三ツ原部、海岸に上陸ス

部隊の戦備を更に敵に、渡り入った
各隊との連絡(口)は森林不良の為、主を以ては、
天一号作戦の冬期、部隊は緒戦の心理ととも
言葉の仲、存付け、福原、身、と、ぬ。

夜、幕は次第に閉ざれて行く
展望哨の下の作戦は、兵舎の二階の戦斗指揮所、
へそ、寝る、ま、と、い、何と、い、つ、こ、ゆ、程、不、は、も、の、ん
棚、作、こ、あ、の、は、向、を、相、つ、た、丸、木、の、上、に、玉、印、を、敷、き
ある、文、に、て、便、次、を、言、ふ、決、ま、は、は、の、空、に、言、復、回、地、の
窓、一、坪、位、の、所、に、三、人、寝、た

朝早く、つ、起、り、て、監視哨に上、て、見、る、の、大、一、は
状況の变化は、い、い、い、の、名、獲、亦、向、て、は、時、小、銃、の
音、の、の、の、聞、える、空、に、静、の、た

迷次騒々、と、は、も、早、大、今、日、は、敷、の、人、の、出、入、の、多、さ
の、た、早、速、剣、の、隊、衛、隊、の、連、中、の、や、を、早、て

「落、上、隊、中、を、定、て、早、と、」

此の隊は一結の陣地内に入りて置るは固く只で
部隊の戦斗準備が充分で居るものと違ひ
して戦うてゐる。亦違ひなき事
全と云ひ置るは仕程の無い。部隊の戦意は
影響する事大なる。受け付けは「ハハハ」

敵の動向は活潑に居る。――
民分団作の情報は取らぬ。――
新と作の戦斗指揮所（一官半と二官半）の概ね
出来上つたので移転をして民衆指導の為の新
陣と改むる作準備中。

一般民衆も元一号作戦の困難さゆゑに怯
念を感じてゐる。軍と運命を共にする決心が
眉宇に現はれおる。――

中隊の敵は田井隊の進入に旨報告がある。
部隊は依然「首なし」の構
態。準備地点に放棄するに必らず一号配備
をとてゐる。

一中隊の状況は概して過へく多量に居る。

7

二二甲

屋敷を伴う羽地の敵情と張着の虫巻

逆攻幕幕は迫る事

途中昔は隊の傳令の報告

戦軍約五と有る敵の一隊の奔撃

鳥居屋仲尾次川上等羽地地区の一隊の進

馳し山麓に於ける其或る敵隊

予定と變更の一と取備の点の爲に

一とせしむる路は略し一とせしむる道は急

止むと傳ふ計ととせしむる上より合戦を

戦場の移り... 見付

和道の小や金川小附道は難小屋

盛んに燃えてゐる 我部祖河附道は

つれ一たり ほうと火の音の上と

燃えさる 防大林にも少しは火が

時々経つた 敵は我が部隊の

大庭 遊と行りて一と帰るべき

一と帰るべき 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

今 遊と行りて一と帰るべき

Handwritten mark

Handwritten mark

27

本部、荷降班一部を伴う、現地一ノ配備に於て、
半宿降班)に急ぐ一兵

先ハ運送を行へ見よ、首級等々の細部の状況を
報告せよ

九時故約三右左衛門隊(一)も亦(一)に
侵入、其の時、度々園地起に居る松田小隊も

舟奥間始、交戦約一合の程、松田小隊は、松林庫
背の陣地へ後退、現在各隊の一ノ配備中、戦の

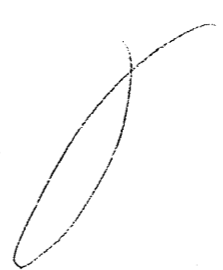
状況は、一ノ配備中、戦の
状況は、一ノ配備中、戦の

状況は、一ノ配備中、戦の
状況は、一ノ配備中、戦の

状況は、一ノ配備中、戦の
状況は、一ノ配備中、戦の

状況は、一ノ配備中、戦の
状況は、一ノ配備中、戦の

状況は、一ノ配備中、戦の
状況は、一ノ配備中、戦の



一部の戦車は乃全員の心を更に刺戟し、
完全に緒戦に於て戦果を揚げてやうと思つて
おたんに金を逆だ （おれと越舞い）

重ねて配備と点検してゐると、先刻の茶園附近
には軽迫りいりの炸裂音があつた。

敵は茶園の戦車後一時後退して威力偵察をと
つてあつた。部隊も企圖を秘匿して待機し、
約一時官位から敵は茶園赤八分の台に迫せし
来た。部隊の一部に敵大を引して灰色の煙の上つて

ある。砲の山に移つて斜面をめぐると、塊めも存
在して擴つてゆく。

部隊の前宙に現はれた敵兵力約百五十名
威力偵察のたつてあつた。足場を茶園に據つて敵組
に對して射撃し乍ら道路より前進せしめ

た。敵の陣地ははぶつたつて来た。い
赤八分の台上には八十名の敵が腰を下して休んで
ゐる。其所をめぐると、大砲は榴弾筒大いあり

これとも合部合し、手探りして三ツツがはひ



射束もやうかと思つたが芳烈力はやうやくと未だ
掃株弾薬の分散度道も済まない今日大坂方面
いつと城壕する中を決めた

敵の動きを見つめると松田伍長が
隊長殿減り済ません

眼に流ぐんでゐる 最後の部下然り二人中一人の
分隊長も失つた彼が……同情の念禁じ得ない
彼は強烈な刺戟の為眼は充血して腫れだつた
見聞の憤怒の情はつかりと看取出来る

今道見たの……彼の此の敵を見て「ぎんぐとーん」
「よもやうだ 仇は中か取らうトヤないか」又「青年兵は
どうかね」と尋ねると

「不意に敵の現きく（戦車）の關係で相手が積
神の打撃を受け居ます……」
志伊良分隊長殿の仇をとるとして張り切るおまへ

「戦北と確忍したの誰か」
「青年兵と調をしますか分りません」

「それによ、どういふ状況だったのか
落付くに随つては

敵の自初ハ銃を肩にぶら／＼ 仲村直木さんの家へ附
近に来た時 射薬開始を命トマール

右の上地を隊左に志伊良分隊各射薬開始を命ト
マール 上地の方は東へ降りて来た敵の丁度山脚に入り込んで

しまったのですから... 志伊良は部下を勵まし下ら
し 膝射を以て射薬しつゝあるまゝに 轡を以て敵の兵力は

増強されたるに 第三線に撤退を命トマール 先づ
上地を隊を下げ次いで第一線を隊を下げたが

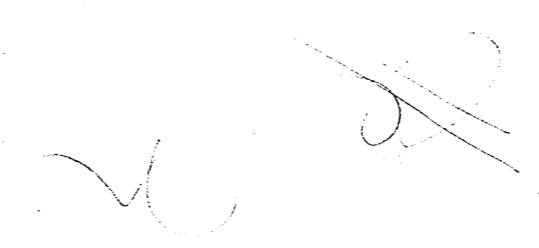
此所へ来て見ると分隊長の居りません 慌てて
調べると此の後の一筋に来たといふ青年兵もあらし

「あつやら水とといふ声も聞いたといふも居ますつて
何だか分りませんか 今迄来た所を見ると戦死

をとおもふ思はれます...

「今被屍体と収容しと来たい、命令なく皆上の主射
敵兵壕に入つておると 敵は思ひかへて你に東つて

来る隙の上を跳躍して通つて行く
兵隊遣の方を見くと壕に密着していつても



銃を前に出して連発してゐる。

防衛隊戦士といふものは大敵を前にしては、無理も
ない……しかし、これでは戦士の出来るだけの
心細く不安になつた。

菅江少尉は、二号配備に於ける方がよ、と言ふ是共申
して来た。考へて見れば、結核の状況と部隊の
素直さ…… そうだ、洒落れた真似はもう止め……

二号配備に

(それに敵の諜報によつてもう部隊の
位置も分つた……)

乾麺を出して専食をしてゐると、第一中隊に連絡

にわたつた。全隊員が帰つて来た。

名護谷の状況…… 昨八の第一中隊は陣と森附近
の敵を攻撃して、為岸中隊長の指揮する一隊が
敵隊…… 一隊の夜間敵の移動…… 為不成功で
あり……

其の他異常はありません

敵は決して山には上つて来ません。只山に向つて警戒す
る…… 山の中隊長の晝夜偵察…… 行つた時敵は全部

9

幕合のり

作業に出て居る所はのり(幕合)に入らんと
去語を腹一杯喰って即上座を降って帰して来
た。屋部共夜は毒が入るから初水はいと
最初は食はなかつたが、腹が減るから
之を食って死んだら文句はないと六ッ許り食
たらーりです

これこそ去語です」と言つて危出ーりか
クレーシンのミート&ベチチルス左一(白歯の方)に
下度味のはい乾麴を嚙つておた時だつたが
早速毒死をしようとして困けて照屋松白比喜加事
五人で食つた

やあー此は空に美味いアメリカの奴價澤ーりや
ゆるんのはあ
名産の方ではこれから種株は敵度には依るんだと
言つて腹を切つて居る水さーり

敵と目の前へ一と楽ーり食ふ時、跳彈
の頭上をかすめる
甲急の戦準備と完結ーりつニ号配備に終

おまゝ命令を待つた傳令は出さねた
又方進々に沿て管江を断つた

今も大群殿のやまも一長

北のやまも一長 傍所にて?

源河辺にたうてす

外に誰かやまも一長か? 鹿作は?

おまゝせん 一長も一長か? 鹿作は?

相違なく血一とある今 駿河務を休んで居れ
ます

どうか あまのこは昨日と政事を受けりか知らん
早邊庵の所へ来てもらはう

おまゝせん

小隊報告... 能の波前近縁に於て

...

...



真夜夜林道及夕方道より前進、山川小隊伏撃
陣地に於て交戦……

我が後衛戦死三百傷一……と

此所でも緒戦である。早速後衛を急がした

緒戦。後衛は部隊の士氣に大に影響する。

揚子の戦死は伏撃陣地前の歩哨だった。敵の

奴に我が伏撃陣地の分る言はない。まうとスパイの

意内したに違ひない。此奴はスパイを見付けると

承知し、南と南と南は横断しとおろす。

赤小川に長は敵が發射機を陣地に侵入し……と

敵の手榴弾を急いで落火投擲せしめた。敵は

此の発火音に気が付いて、さうと後退した。彼は

……と、思ふ様と、我の急し、追突して投擲し

た。樹林に引懸けて自分の殺した手榴弾……を

咽喉と肩傷した。

橋の急と線合し見ると敵は急却り島攻撃した

先きうて谷文長方面を攻撃する。あう……の操

船は急三号砲台を急がす。



四月十日昨日の如く敵はやつて来たらしい盛んに銃声の聞える

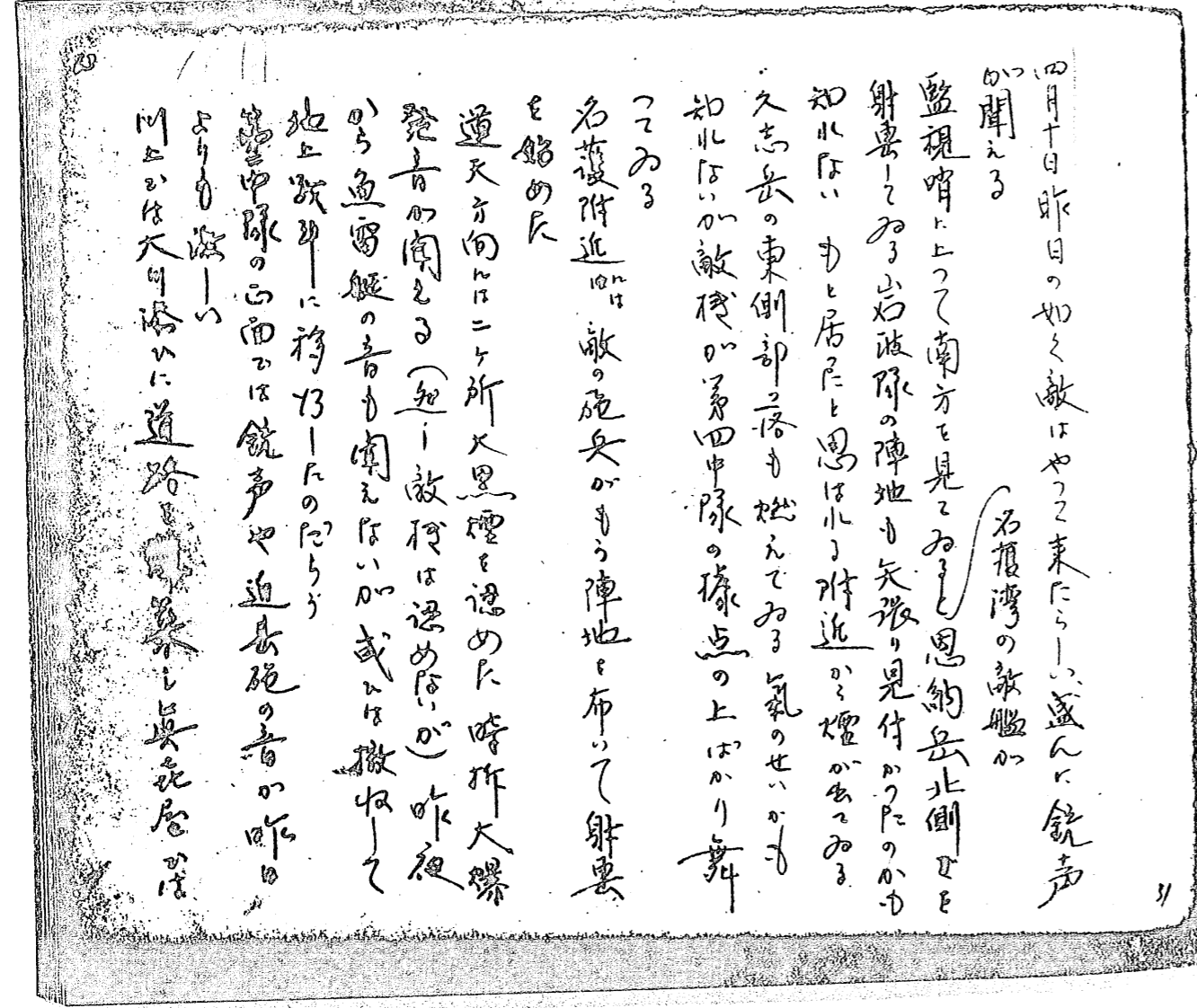
名護湾の敵艦か

監視哨の上つて南方を見こみ思納岳北側を射撃してゐる山崎隊の陣地も矢張り見付かつたのかも知れないかと居たと思はれる附近の煙かあつて久志岳の東側部も燃えてゐる煙のせいから北側の敵隊の第四中隊の隊点の上ばかり舞つてゐる

名護附近の敵の砲兵の陣地を布いて射撃を始めた

逆天方向には二ヶ所大黒煙を認めた時折大響発音の南を(知一敵隊は退めたいか)昨夜のうら魚雷艇の音も聞えはいたか或は撤収して地上隊に移動したのだから

山崎隊の方面には銃声や迫撃砲の音の昨日より激しい



7

却る者の南側 飛トヲクターで何か工を始めたり
或る者は飛行場をうらうと言ふし 或る者は砲台
のむ知水はと言ふ 就ルハ一も多ク 岳攻塞の
準備らしい

午後二時後 第四中隊の青年兵の負傷した本部に

来た
羽地伍長の

隊長殿 第四中隊の比嘉小隊は敵の攻撃を受け
て福川に下つたらしいです」と云

「撃たれ取られたらどうです 此の田のり手です」と或は
「第四中隊の下の糧秣庫は燃かれ今第一中隊は
包圍されて居ります」と糧秣庫遠隔者は言ふかー又
「第四中隊の準備しとめた糧秣庫及棲息所は
燃かれば今乾パン箱の上に腰を下して 煙草を
吸つて居ます」とか「乾パン文持で帰ります」と云
糧秣庫は敵や福を包圍して 早送
第四中隊の面道襲撃隊を合同して

山ノ端は長に命じて戦平指所附近所在の遊兵
と全多集めさせ戦平準備をせしむ

兵令入つて軍刀を出し拳銃平砲彈を出し乍ら
「おい原盛傳盛 力をぞ 早々準備をせしむ」

と云ふとつと地報道那美の
「隊長の出る時は未だ
せんはに短氣を起しはいんむすよ」

「いや此の際やらは若い人 軽槍を取ら水塚
点が甚き此で懸つておては面目にかはる……」

集る兵僅かに山ノ端は以下僅かに八名
「こんは少いか」

「はい此等は習練遣ひをやつておます
「いや、勤皇隊の居るだらう」

「あれは小銃の……かありませんし又今旗を作らしてやつておます
「うん、構はんよ水も干名出せ」 翠々の準備を……」

集めたる勢力的に為、後から来る者は……
「命に命して前進せしむ」

第四中隊の後退し、その所に来たか小隊長不
死

敵約三十名の第四中隊の準備の間に道路上を
前進し、来たので伏裏態勢にあり、軽機及

小銃を以て射撃開始、敵に相當の損害を與へ、
遂次敵は兵力を増強し、日更に後方に迂回す。隊

は砲を見えたので第三線陣地に後退（彈藥庫）
警を待ておろし、亦三方より攻撃を受ける様に右

方より攻撃された時は敵の眼前十米に近接す。
遂に不戦でありし。

此の時輕機手は負傷し、此所に撤退し、
始めに輕機手が取られた事のみなりし。

以上の様な報告であった。依つて本攻撃隊へ、第四中隊
の第一小隊も参加させ、

各隊は敵情偵察の後約四十名を五ヶ分隊
に区分し、夜中の進路隊形（菱形）を作つて

守備隊長長に方向維持を命じて前進し、
急行斜面におよぶと急攻し、その小隊連絡し

失眼するに
車附近の偵察をせよと敵兵はーとの報告……
部隊と其の位置まで前進させ戦斗を以て
弾薬を取り出し取上りて進軍させ

敵は此の林に弾薬庫の入口まで来て居るが此の
付かない 欠乏は足跡は入りより五十程しか尙ほ
比嘉の隊の毛布や襦袢や私物等其の場
置かれてあつたものは總てクスクスとすぶつて
襦袢は米六十袋 乾パン四十個の損着
あり

此の山は當分は自分の陣地だといふ人
多しと通らぬがぬがぬが
を履きし丹戎は後足は足が約二軒と進んだ
河の物も向ふに谷の物も

1010

此の山は當分は自分の陣地だといふ人
多しと通らぬがぬがぬが
を履きし丹戎は後足は足が約二軒と進んだ
河の物も向ふに谷の物も

三三

今度の由、自に始り申す事、思ふに
何れも、次も居る。いふも、
遂に茶園赤の、名も、一、
在納股部、係に、一、
渡り、今、
新、
帰、
帰路、
焼、
送、
道、
西、

何れも、
余、
此、

田

何時にかつたか分らないが相當腹も減つた咽喉も
渴いた 極度の緊張の後下り山道を通るには
更に疲労を増して来た

足元は妙に針金に觸ると知ると音を立てた途端

誰か...誰か...と誰何された

護郷隊!

あゝ護郷隊? 隊長殿ですか まあ休んでござ
ります」と聲が近づいた

休息!

青年兵連はもう腰を下して眠る

前夜分隊の諸君と昨日攻撃した敵の兵力は
約百名、剣の鈍股、新崎をわて自動車と

下り福川に向く前進した 戦況は約三時の
終戦で後退するを認められた 三時頃計

隊を攻撃命令ももたらして準備して出陣
したと云ふ事もある

...

下

たのでニ名我死ニ名負傷させ外戦果はありまじ
左此から うちの斬り班は未だにせん所はモサ
とろまいたかとか驚いた風態

若干前進して西銘隊の指揮班の位置と覚し
血にきて乾パンを受領して元氣を付けし
思ふ兵隊達は眠りと空腹でふらくとある

山入端伍長と我如古青年兵や密林と通過し
途中何回となく縛りどであらうと思はせる
途中何回となく縛りどであらうと思はせる
汗だく 帰つて来た

夜のけ前である 非常に冷える 青年兵達
何も忘れて眠る

飼付け！ 飼付けだの声に起る
一同山入端伍長以下に感謝をい下ら 食中
さあ、出た頂上では皆んは待てるよと違ひ

早く帰らう
戦指揮所に着いたのは夜の明けからだった
(11日)

午前中は休養

故の奴は相変ふ事未だあるまい
もう太陽は頭上にある。そろそろ起きなければいけない
と思ふそのと照屋軍曹の

隊長殿もう準備の終りまいた。三中生は張り切
つて居ります。命令を下せよと下さい。……と
昨日より計画した伊差川の砲兵攻撃の出来だ
出ておくとともに張り切った奴の(宮城の)と三中生
の(五年生)隊員八名と共に並んでゐる。

命令も下せよと先ん

中ず

我々は如何に苦しい状況にまゐるとも抑つて
此の任務を完遂致します。

更に激励をして行動期を一週を伊差川。

砲兵大尉の破壊の為か若せいの兵

連中此の八名の攻撃隊は一人前の兵隊に育つ

ない物な態度である。後、残された勲章隊は

遺りもなす

此の次はふたりのせて下さいと 録血勅軍隊中隊長
山入端(美)伍長に頼んで来る

彼は此等隊員の純は熱情に動かされ感激
い下り隊員に報告して居た

通信班にりと無線と暗号班がお互に技倆は
未熟ではあるが一生懸命にやうてゐる。何とか

支隊とも連絡のとれ、状況は分る
無線の諸君は回兵は優秀なものだが陰謀で

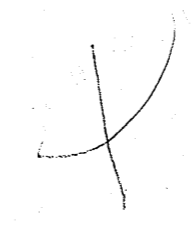
同盟三一式も取れる新聞の主材として申し分な
ない。十一日現在の敵情と戦車機要と打電長

後方の警備戒に當つてゐる通信班の歩哨が戦友と
共に一般守則や特別守則を

真面目になつて覚えてゐるのを見て非常に
頼む!

戦斗官と雖も勉強をばなしてはならぬ今と身
をた子にやあへら小の作だ

監視哨を通つて菅江隊と巡警に出城した
の下の橋守道



午前中は休養

敵の奴は相変り来ておるらしい
もう太陽は頭上にある。そろそろ起きなければいけない
と思つてのりと照屋軍曹の

隊長殿もう準備が終りました。三中生は張り切
つて居ります。命令を下遣いして下さい。

昨日より計画した伊差川の砲兵攻撃の出来だ
出ておくとともに張り切つた奴が(宮城のときも三
の五年生)隊員八名と共に並んでゐる

命令を下遣いしない先に

我々は如何に苦しい状況にまゐるとも振つて

此の任務を完遂致しますと

更に激励をして行動期を一週分伊差川の

砲兵大尉の破壊の為を教せられた

違ひれた八名の攻撃手は一人前の兵隊に育つ

たの存心感である。後、残された勲果隊は

選にもおれ

77

此の夜は中ちりのせて下さいと 録血勅軍隊中隊長
の入端(義)伍長に頼んで来る

彼は此等隊員の純は熱情に動かされ感激
に下ら隊長に報告してゐた

通信班にたゞと無線と暗号班がお互に技倆は
未熟ではあるが一生懸命にやつてゐる。何とか
支隊とも連絡のとれて状況は分る

無線の諸君回兵長は優秀なものだお陰で
同盟ニュースも取れる新聞の素材として申し分な
い。十一日現在の敵情と戦車機雷と打電長

後方の地雷戒に當るゝ通信班の歩哨の最良と
共に一般守則や特別守則を

真面目になつて覚えてゐるのを見て非常に
頼む!

戦斗智と雖も勉強をばなしてはならぬ今と身
をた子にやゝあへる小の作だ

監視哨を通る菅江隊と巡警に出会つた

の下の種作道

地帯人の我を認め

あ、隊長殿此の前には敵が来ておます前には
行かない様にと下さい

「あ、苦勞な御座います、一禮とくさつと家財道具や

山羊ふんがと連れて避難して行くのもある

歩哨をして我が陣地内(即ち秘匿地区)に入れない

様に取締らせるのではあるが、兵隊さんと一緒に

居れば心強いとか、兵隊さんと一緒に死んでも

良いとか、夕日の裏の方へ避難する、くさつと

此所を通らせて下さいとか言つて何千何百といふ

民衆のあつてゐる、民間の指導団体

には豫備から注意して置いたが、今の様なことはある

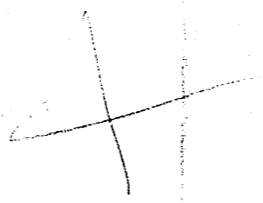
全く此の民衆の始末には困つた

赤と水に加へて例の防衛隊に此の防衛隊

と違つて夕日に来た敵も多い、早々始末を

つておぼろぬ

例の降ろせられた





木の下に毛布や外套をかぶる。一たんぼりまっく
る姿を見るといぢう〜はうら

仲には戦斗意欲強いのも居るがらう此の際
凡白の戦力を統合しては勝てない

特設工兵隊長古場中尉に連絡して折々の
部隊を糾合して谷文北側に陣地を占領する如く

命令して整理を図る

200 菅江隊陣地に入ると三叉路まで来ると隊長以下

約半数が雨にぬれ下ら軽装を前にとまってる

中隊長の報告によると陣前約五百米に敵の居る

夜も炊き得ず二号配備以来未だ食事も
とらぬといふ事だ

戦車指揮所を炊いて運ばせる様にして
私服の情報隊員の報告は来た

赤川上攻表証ハ三組出てゐるらしい

川上の三角屋に敵約三名と川上の橋の所に大々は天
幕三堰止めの所に幕舎の十々あります

毎日夕二日に来る敵は此所から出て来ます
羽地太川の出口には機関銃及重火を待った歩哨の
二重に配置されておます云々と

配備を点検し情報を交換後兵部に引上げられ
兵部に歸す見ると 中隊から
敵に奪取され

名護岳進備據点は四月九日攻果と受け鉄血
勲章隊三名 山田重平及據点監視哨

如く川上南線上の據点の後退す (ワンスの據点)
と書かれた報告文書がある

愈々戦いは本格化して来た
おける十二日挺身攻撃隊を益活滝に敢りさせし為
部隊を攻撃班準備班後方班に分け、之に
向する指示を出す為 應急札(乾パン箱)に向す
事務を取らるると菅江隊の青年兵の

隊長敵の傳令の言つて入つて来た
報告文書を見よと

報告文書を見よと

報告文書を見よと

報告文書を見よと

